

# 6月の立山周辺

1984年  
6月2日~4日

CL 菅沼 SL 鶴山

古川、重田 加藤 鈴木 矢野

- 6. 1 新宿発 23:45急行 集合23:00
- 6. 2 信濃大町よりアルペンルート→室堂  
→大走り→真砂岳→真砂沢→剣沢  
→剣岳前小屋(泊)
- 6. 3 小屋→雷鳥沢→一ノ越→東一ノ越  
→タシボ平→アルペンルート→室堂  
→室堂一ノ越→立山川→東鳩島荘
- 6. 4 小屋→魚津 →帰京。

4月8日の巻機下転倒したぼくは右足首右肩をいためてしまつた。樂しみにしていた五月連休は、そんなわけ下寮に居了羽目になつてしまつたのです。菅沼さん企画の立山周辺山行は、肩が少々痛がるうとも参加したというわけです。23時45分の急行に乗るにはまだ30分以上の時間があるといふうちに、雷雨がひどくならないうちにと、女房と子供たちにせかざなを出た。すくにパラ・パラ降り出していふ途中下本降り。駅には廻やどりの連中が「アホな男一人かけ込んてくるのを見つける」といた所です。何の事はない一番ひどい時をぬけた家を出た事になつたのです。一駅も着かないうちに上がりこんでるではありますか。新宿一番ホームに着いたら石垣君がすくにきついた。上野下予定の電車に乗れなかつたとか、メンバーがそろつた頃、島田さんの家族の方が見え、お客様に事故があつたから参加を中止したとの事、アガスコンロと

コカヘルをととげにきた。

6月2日大町駅からバスで標高1500メートルの扇沢駅に着く。周遊券で10人記念乗車券に変更荷物代をうつすためにフフをはへたりしザックを小さくまとめた。文明の力とはありがたるもの下汗を流さない下2424メートルの室堂ターミナルまで上げてもらつた。ターミナルは観光客とスキーヤーであらわらず、にぎわいである。初日はカツバが必要なしほど、うれしい事はない。みんな日焼とめをぬるつに。そがしい。9:50出発。みくりが池山荘あたりから真砂岳方向めがけ滑り降ります。称名川と思われる底地 10:20 これより別山と真砂岳の稜線めがけツボ足下登り出す。くば地の石めが暑い。稜線近くはほんの何メートルもか雪が付いています板はかつてます。真砂稜線 12:15 行動食を取つたりし出発 12:45

菅沼さんが写真を取るため先に真砂岳側に斜滑降下入った足元が流れ出しつたため、ぼくたちが別山側からの滑降となつた。初日の滑り出しはどうも板に乗りたらないという感じがする。カールはすぐ終り石か剣沢との合流まで約45分の滑降である。何ヶ所か斜度もあり最後の出口への滑り込みは一番強かつたよう下す。剣沢 13:30 小休止してこれより青木小屋まで1000メートルの登り返し下す。元気者、加藤さん鈴木さん先行してもうい宿泊の予約を済む事になった。剣沢は斜度があまりないので時間がかかりバテバテです。明日の池、平行どうする?「又、ここ登る?」「そういや!なんバテ組はかつて事をホヤキながら先行組のキッズステップにしたがついくのです。

07-07-1

7

NO.00103

8月  
29

8

NO.00103

小屋 17:40 真田さん持參のワイン下車一杯をす。春山コース終りながら小屋へかうかう。毛布もすきなだけ使之た。

6月3日 朝のうちはうす雲りだが日中は快晴。朝食後タベから懸念になつてゐる。今日の行動予定をあれこれ出したが、真田さんは單独で室室越へ立山川経由下へ足先に帰宅する。池ノ平行は剣沢の登りを考へ全員中止で一致した。結論としてタンボ車に行き時向があれば馬場島まで下りる事にした。出発 8:30 雷鳥沢を室室越側にトロバスぎみに滑る。葉越へ分歧で真田さんとわかれ。少し尾根上を滑り中向点より別山側に滑り込んでいく。陶山さんは明日かうひさの不調を訴えていたのですが、まずは全員快調なようです。林名川一、越取り付き地点 8:50 これからボ足 127 出発 9:00 真砂岳下部から雄山頂上直下をトロバスぎみに一越へ。10:30着。まことに東一、越へ。夏道が見えた。陶山さんは「体憩は夏道でしょう」とささと滑っていった。この道は毎年早い時期から出るのではあります。サウナに吸いつけ小休止後出发。東一、越 11:15 天気は最高です。半袖で滑りたつますが、これはいけません。馬場島への道程を考えると気が急ります。11:30 出発。ロープウェイ下見たほど斜面は良くなく、斜度は申し分ないのですが、綻溝が下きていて滑りにくく、五月連休頃なら良かたかもせん。タンボ車はケレテテで言えど初心者コースと同じくらいです。ロープウェイ 12:15 フリーカーがある。下駄の持込料 400円ですみます。12:40 出発。トロバス 13:00 ターニルで水を補給し 13:25 馬場島へ到着。

みくりが池山荘あたりでから。右手に滑り込みすぐ左側ロープ塔のあるケーレンテに通り込む。新名川室室越取り付き点まで下滑降し小休止後ボ足 14:00 出発。この時の暑さは最高で太陽がシクリシクリとうなづく夏山より高い奥大日岳側に位地する 2390m トレーの、こんもりとしたピーク 14:30。今日の目的下もあつた待望の立山川滑降下す 14:45 前始ます。まろい斜面下す車い、越のような溝はありません。斜度は「ううですね」芝倉沢の稜線ぐらへ下す。思つき、丁寧込んでいきます。入山2日目でもあり、坂板が自然と動かされてくれ「オモシレ」の何より最高。陶山サブリーダーがどんどんリードしていく。董治 4-7 は、ぼくたちを見ながら、しゃがりを努めています。「あれ」古川さん、どうしてか遅れがちです。こんな、じきげんな滑降比東大谷まで、毛勝谷からは最高、雪は部分的に落ち雪とけ氷がココロ下す雪とへつて泥と石が乗つていてとても滑るところではありません。この段を通過するには遅すぎます。不安定なスノーフリーリングを行けば渡つたりし。荔の滑り始めとは天と地の差です。陶山サブリーダーが介候として先へ先へと行きます。董治リーダーが指示を出したりします。両側からいつ落石がくるかとれません。下神經を研鑽ました。の行動です。「橋下落が見えたぞ!」近づくにつれ水内とわかる。川をはさんで左側でなければ林道に入れないため少し引き返し、一部令穴のあつているスノーブリッジを渡る。「木山ばくはう」一部に左足を踏込もうとして「ま青」です。985m トレー立山川水内 15:30

林道入口 16:45 最初に見之出す登りきみの林道ではなく、その下の方を通りすぎるとすぐ又林道が出てくる。馬場島荘への道、毛勝谷のうはどうなることかと、皆んな口數も少なかつたのに林道に入つたら急におしゃべりになつたようだ。古川さんの笑顔下 11:00 トレーが知り気がした。馬場島荘が見之出した時は皆んなで「ヤマターン」とうれしい喚声を上げた。馬場島荘 17:30

休みをほとんど取らなかつたため、思ったよりも早く小屋に着いた。判断力のいる最悪な次の状態を宣田さんは単独無事行動でさる事に対して敬意を表しました。ぼくたちは行動しながら、あなたの事をどんなに心配したかしません。はっきりしたトレースが見当たらないからです。ぼくたちと時向、それが大きかつたからでしょう。小屋の伝言板を見て皆んな安心しました。小屋の人から山菜取りに来た人の車下帰つたと聞き「ホント」しる酒もより、おしゃべり、左さん飯めたというわけです。

6月4日 小屋のおやじさんにタベの交渉一人 2000円下魚津駅までマイクロバスを出して、もう事が成立し 8:30 駅 → 魚津駅 9:45 来車まで時向がある。海へ行こうと加藤さんが車出しアラアラ出かけた。

船着場の横は漁に守つてある。「たれだフルーツ」で泳ぎ出されたのは大笑、山男はこんな所があつたと。

近くを今までよしにくく、よけいな内容が多く記録としては参考になるものかもしれません。ぼくが書けばこうになります。

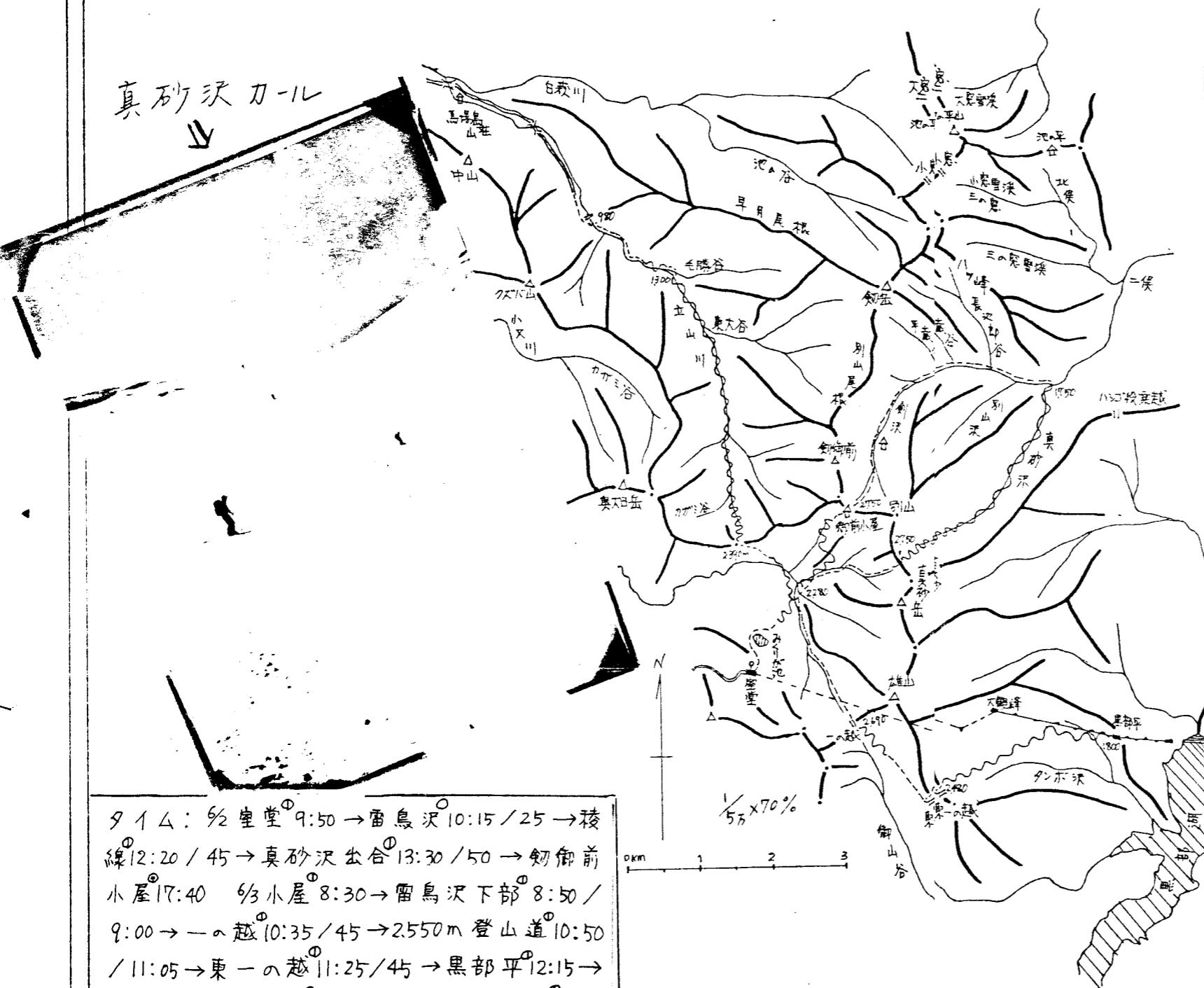
記、大野 樹司

# 4度目 立山

840711

9

NO.00103



夕1△: 6/2 堂堂<sup>④</sup> 9:50 → 雷鳥沢<sup>○</sup> 10:15 / 25 → 稜  
線<sup>①</sup> 12:20 / 45 → 真砂沢出合<sup>①</sup> 13:30 / 50 → 劍御前  
小屋<sup>⑥</sup> 17:40 6/3 小屋<sup>①</sup> 8:30 → 雷鳥沢下部<sup>④</sup> 8:50 /  
9:00 → —<sup>○</sup> 越<sup>④</sup> 10:35 / 45 → 2550m 登山道<sup>①</sup> 10:50  
/ 11:05 → 東一<sup>○</sup> 越<sup>④</sup> 11:25 / 45 → 黒部平<sup>①</sup> 12:15 →  
ケーブルバス → 堂堂<sup>④</sup> 13:10 / 25 → 堂堂乗越<sup>④</sup> 14:25  
/ 50 → 毛勝谷出合<sup>①</sup> 15:25 / 35 → 菊石取水口<sup>①</sup> 16:  
45 / 17:00 → 馬場島莊<sup>④</sup> 17:30

最後の山スキーと銘うつての立山ももう4回目を迎えてしまった。ここ2年は天気に恵まれ爽快な滑降を楽しめた。しかし、近頃はりさか食傷気味になってしまった。室堂側の全ての斜面は衆人環視の中だし、黒部側の斜面はアルペン的景観の真只中で爽快な滑降を楽しめうれしいのだが、ここでの特徴として下るための登り、言いかえれば滑一本後の登りかえしがあまりにづらい。今日は小窓雪渓や池の平方面へも行こうと計画を立てたのだが、軽く断念してしまった。前日の真砂沢の滑降後の剣沢の登り返しで気力の限界を感じてしまったからだ。この剣沢の登り返しの苦痛は筆舌に尽しがたく、真砂沢や長次郎沢の出合あたりが限界に感じてしまう。とても二俣から登り返す気には今回はないなかった。もっとも小窓雪渓を登り、大窓雪渓のデコレーション部分を楽しんで馬場島へ滑るならば話は別である。連休中なら可能とのことだった。

立山川は上部は傾斜もあり爽快の一言だ。本谷は幅が広く快適だった。ただ毛勝谷出合下のゴルジユはデブリのゴミが多く歩くハメになってしまい残念な気がした。

とはいえ、室堂へ下るのに比べ数倍の爽快感を感じることができた立山川滑降だった。また小屋の御主人は大日岳からのルートもおもしろいと語っていた。(菅沼)